

西南日本の深部低周波微動・短期的スローリップ活動状況その3(2008年1月東海地方)

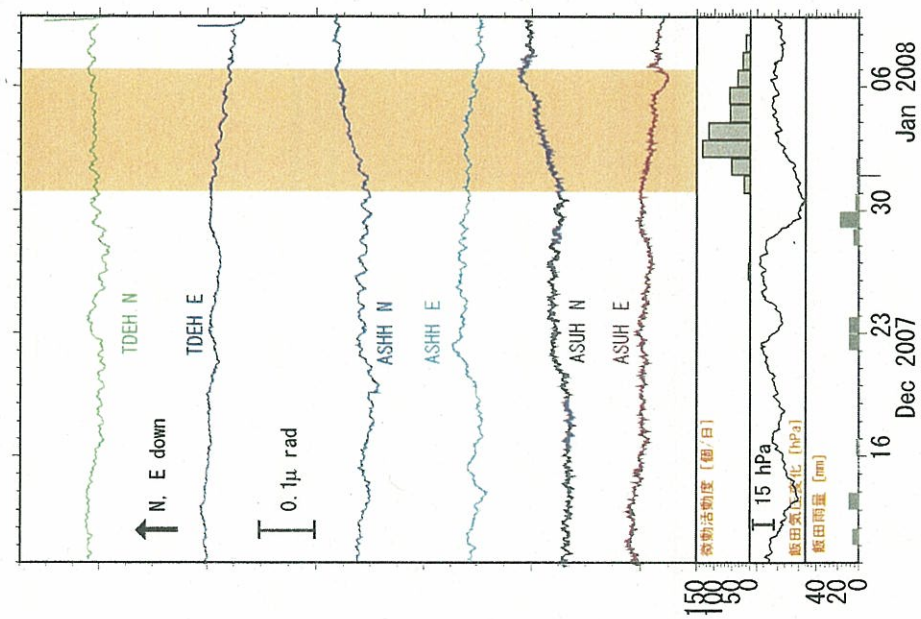


図3: 2007年12月10日から2008年1月10日までの4週間における作手(TDEH), 旭(ASHH), 足助(ASUH)の傾斜時系列。観測点の位置は図4に示す。記録は上方向が北・東下がりであり, 気圧・潮汐成分およびリニアトレンド除去後の記録を示している。ハッチの前後における傾斜変化の差をデータとして断層モデルを推定した。この期間における微動活動, 気象庁飯田観測点の気圧変化および雨量をあわせて示す。

● 微動活動とスローリップの範囲が調和的
● 昨年6月の活動よりも大きな活動であり推定マグニチュードはM5.9である。

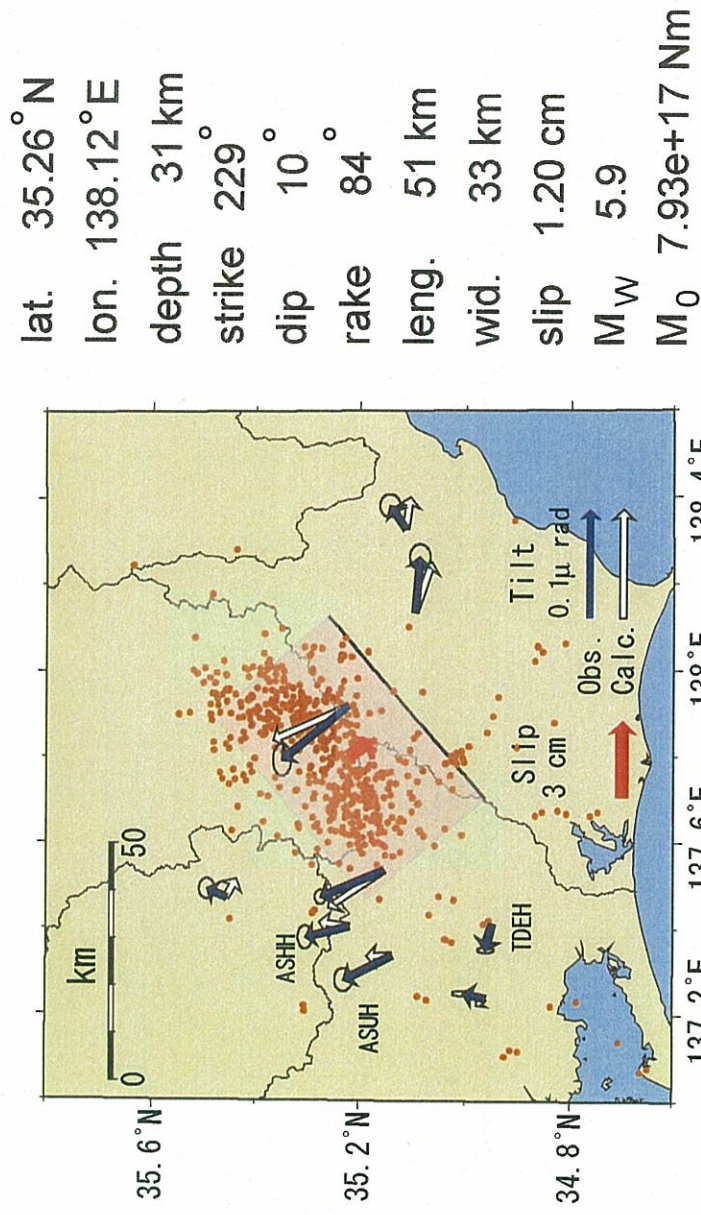


図4: スローリップの断層モデル。断層面の形状を赤矩形で, すべりベクトルを赤矢印で示す。観測された傾斜変化ベクトル, モデルから計算される傾斜変化ベクトルを青矢印および白抜き矢印で示す。橙色の点は解析期間内に発生した深部低周波微動の震央位置である。

謝辞: 気象庁のWEB上で公開されている気象データを使用させていただきました。